

# 双塔

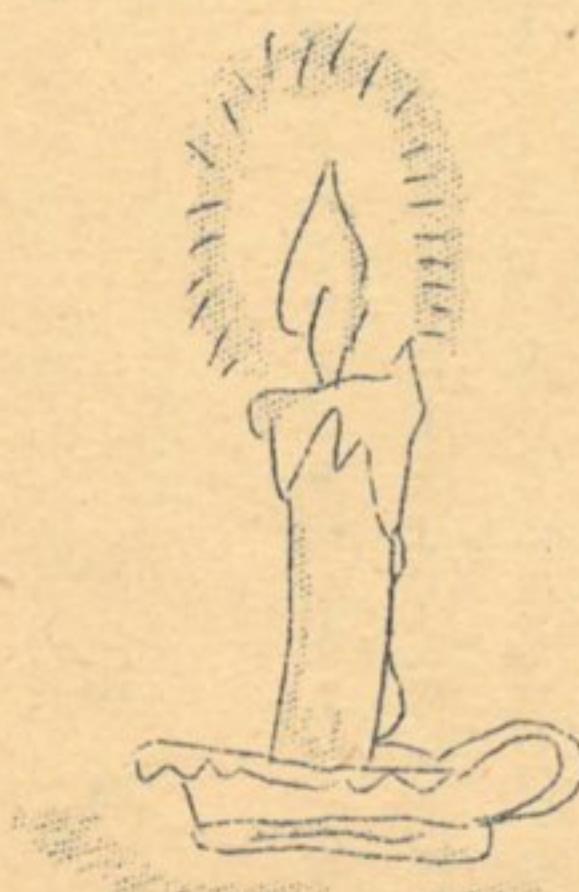
御復活号

1958

---

新潟カトリック教会

---



いざや喜び踊れ、天つみ國のみ使たちよ、天主の  
玄義も喜び踊れ。たすかりを告ぐるラツバは王の勝  
利を知らせんとてとどろき渡れ。  
きらめく光明に輝く大地も喜び永遠の王の燐たる  
光のもと、全地は暗黒の消え去りしを覚えよ。

### 御復活の称讃

いざや喜び踊れ、天つみ國のみ使たちよ、天主の  
玄義も喜び踊れ。たすかりを告ぐるラツバは王の勝  
利を知らせんとてとどろき渡れ。

### 聖句

聖句

### 目次

復活のよろこび ..... 野田時助 2

叙品前の默想のノートより ..... 神学生 鎌田耕一郎 3

司祭職を志す青年へ一言 ..... 植栗順一 5

新司祭を迎えて ..... 森泰三 2

新司祭をお迎えして ..... 野田時助 2

鎌田神父様をむかえて ..... アウグスチノ 10

ルルドの聖母 ..... ヨハンナ・フランシスカ 12

コント 一銭を粗末にする者は ..... ヨハンナ・フランシスカ 11

叙品式に参列して ..... ヨハンナ・フランシスカ 11

編集後記 ..... 14

福音書

福音書

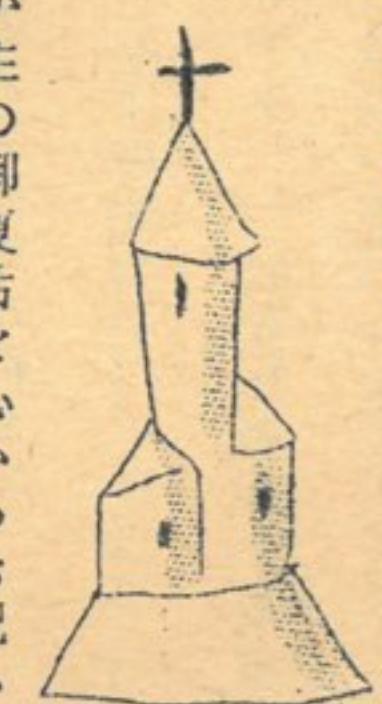
## 復活のよろこび

野田時助

ことしの復活祭は特別のよろこびと感謝の心をもつて我々に祝われることとなつた。このよろこびはもとより主の復活が約束しもたらした恩恵によるものである。私がここに述べたいのは、教

区付新司祭鎌田耕一郎師の叙品のことである。教区の甦ること

が我々に新らたな信仰生活をもつておこさせてくれるよう、邦人司祭の輩出は我々の教会生活に新生氣をいきぶかせてくれるのである。特に教区の布教活動は邦人司祭陣の整備によつてはじめて軌道に乗る。これは当然のことであり、神のみ摶理においてまた明らかにされている事実である。「刈り入れは多いが、働く人は少い。だから、刈り入れの主に、働き人を刈り入れにつかわし下さるよう祈りなさい」（マテオ九ノ三七—三八、ルカ一〇ノ二）と聖主は仰せられた。「刈り入れの主」は聖主であつて、我でもなければ、また教区でもない。にもかかわらず、聖主はおのがぶどう畠の働き人をお求めになる。そして働き人の手に刈り入れをお委ねになる。ここにみ摶理の常則を我々は認めなければならない。神の国、キリストの国政に人々を参画させてみ國の栄光、キリストの復活に与らしめようとのみ摶理である。



三・森泰三

神みずからは我々の力や働きなどを必要としないことはもとよりである。しかし全善なる神はその榮福を人々に頒たんがために創造もましてや救済も右のよくなみ摶理から行い給うのである。これをはなれて我々の生活も、復活も、使徒的活動もありえないことを心に銘記しよう。

教会は少くとも年に一度御復活祭の頃に聖体を受けることを命しております。この擧は単に年一度と言わずに、御復活祭の頃と期間を限定していることに注目すべきであると思ひます。私共の信・望・愛は、少くとも年に一度は主の御復活の奥義の中に新たにされなければならぬことをさとしておると思ひます。

事実、この御復活祭の頃、幾多の死せる魂が超自然界によみがえることでしようか。しかし、死せる魂ばかりでなく、既に活ける魂も、更に新らしい生気によみがえることでしよう。

実際に御復活は新しい生命、喜びのお祝いであります。こゝに私どもは聖バウロの「もしキリスト復活し給わざりしならば、われらの宣教は空しく汝らの信仰もまた空し」との言葉の意義を悟ることができます。今年の新潟教会の御復活はこれに更に新たな喜びを与えておりました。それは申すまでもなく、高橋神父様以来八年ぶりに新しい神父様をお迎えしたことあります。復活し給えるキリストの新しい代理者は、特別に豊かなお恵を私どもの間にもたらして下さいました。私共はこの新たな恵に勇気を振つて活氣強く歩みを続けましょう。

新司祭の御着任にともない、高橋神父様は佐渡教会専任となられました。約五年間、佐渡と新潟の間を何回往復されたことでしょ。あの冬の嵐の中を通うことは、決して楽しいものではなかつたでしょう。長年私共の間でお働き下さいました神父様をお送

りすることは残念なことではありますが、佐渡教会にとつては久し振りの復活の喜びとなつたことでありましよう。高橋神父様に長年の御指導を感謝すると共に、神父様の使徒的働きの上に、又佐渡教会の上に、主の御恵豊かなんことを祈りましよう。

とでしよう。

## 叙品前の默想のノートより

鎌田耕一郎

フランス・ジャムの詩の「神さま思い出して下さい。わたしが子供の頃、あなたの搖籃に格ひらきを捧げたことを……」という一節が私の心に浮びます。格どころか、私は青年になるまで何一つとして小さなクリスマスの歌さえもあなたのためにお捧げしたことはありませんでした。私が若し幼児として、馬小屋の前でいたけない祈りを捧げた記憶があるならば、今どれほど、安らかな気持で叙品式に臨むことが出来たことでしょう。けれども私を襲うものは苦い異教徒の思い出ばかりなのです。それ故この詩の一節の思う度に私の心は痛むのです。それがお選びの全能に対する感謝と讃美に變るまで。

\* \* \* \*

「二人の弟子（アンドレアとヨハネ）イエズスに隨い行きしに、イエズスより返りて其の従えるを見、之に曰いけるは汝ら何を求

「イエズス之をみつめて曰いけるは汝はヨナの子シモンなり、ケ

ファの子シモンなり、ケファと名づけられん、と」（ヨハネ一ノ四二二）

「イエズス、ナタナエルの已れに来るを見給い」（ヨハネ一ノ四七）

「イエズス、マテオと名づくる人の収税署に坐せるを見て、我に従えと曰いしかば、彼立ちて従えり」（マテオ九ノ九）

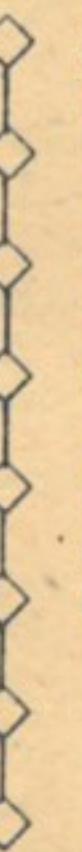
ヨハネは年老いて、その福音を書き「時は四時頃なりき」と、時刻まで記憶していたように、この瞬間は弟子達が生涯忘れるとの出来なかつたほど決定的なものでした。弟子たちがその生活を捧げるために一誓で充分であつたそのまなざしは、すべてを見透し給う神のものであるそのまなざしは、私の魂にもそゝがれ統けたことを確信するのです。

\* \* \* \*

「汝等が我を選びたるにあらず、我こそ汝等を選びて立てたるなれ」あなたが弟子達をお選びになつた様に私をもお選びになつたという確信なしに私は司祭になることは出来なかつたでしよう。けれどもその選びが多くの人の祈りと犠牲とによつて保ち続けられたことも同じく確かなことです。

祈りに於ける助けということが、どれほど大きなものであるかを今ほど強く感じたことはありません。ベトロがチベリアデの湖畔で「主よ、我は罪人なれば我より遠ざかり給え」と叫んだその

感謝に満ちて此処を去つて行きます。此処で私に与えられた限りないお恵みの故に……。



### 司祭職を志す青年へ一言

植栗順一神学生

人間としてこの世に生をうけてから誰もが一度や二度は必ず人生の岐路に立たされるのであります。主として高校又は大学を卒業され司祭職への憧れを胸に秘め、亦これから秘められるであろうところの人々に一言申上げたいと思います。否、むしろ、斯んな僕でも司祭になれるかなあ、と思ひ煩つておられる方々に是非とも一読していただくなつて筆を執つたのだと言つた方が当つてゐる様に思われます。

思いますにカトリック信者である以上誰でも一度は特に卒業などの重大な時期に際して司祭職に就いて思い廻らす事があるのでないでしょうか。

そこで当然問題になるのは召命の有無如何に就いてであります。

同じ自己の慘さの認識が私を支配するのです。

始めて新潟に来た時平伏して祈る礼拝になじむことが出来なくて、まるでマホメット教徒の様だと思つたあの平和な、然し強い信仰を持つ信者たちが見も知らぬ私といふ人間が、やがて司祭として立つというその事のためにどれほどの期待を持ち、いかばかりの祈りを捧げてくれたかを今、真に理解することが出来るよう思ひます。私を祝福して下さるその同じ祝福を彼らの上にも与えて下さいますように。

一 米 米 米 米 米 一

若し司祭の眠りというものが戦いの間のまどろみにすぎないものであるならば、そして羊達を守る羊飼の様に、羊達の危険と苦しみとの故に、心を痛めつゝ、仮寝の夢を結ぶのであるならば今宵最後の安らかな休みをお与え下さい。

一 米 米 米 米 米 一

「夜は至つて短いのに果しない様に思われる。けれども果しない様な夜でも終つてしまふ」というケストナーの言葉の様な夜でした。喜びと不安に似た期待の中に、夜は明けそめて参りました。今日私は青春と言われる時代の殆んど総てを過したこの神学校を沈黙の中に去つて行きます。私は其處で悩み苦しみ嘆き、祈りの厳しさと甘さとを知りながらキリスト教徒として成長しました。多くのことを学び、多くのものを得たと同時に又いかに多くのことを捨てなければならなかつたことでしょう。けれども結局私は

そしてこれは次のような疑問形で表わされるのが普通の様です。即ち「此れでも僕は司祭職への憧憬をもつ。それは司祭職について考える自分自身を感動させ、且つ発奮させる大きな不思議な力を持つからだ。さて此の僕の憧憬は良いものに傾く单なる感情の所産に過ぎぬか或いは斯んな僕にでもこの憧憬を通じて遙なる所から刈入の主が呼び掛けているかの何れかである。

然るに僕には何らそれについての靈感らしいものはないし、又何ら靈的感動や慰めもないのみならず、しかも、僕にはそれに想応しいという自信はない。故に僕には單なる感情の所産に過ぎぬ憧れのみで召命がないものとも思われるし又眞實に召命があるのかも知れないとも思われ判然としない。」そしていざ主任神父様にこの問題を打開ける段になると躊躇して丁うのです。その理由は人生の岐路の中でもそれぞれの職業に就くのとは勝手が違つて司祭職だけに特に「選ばれる」と言う意味の召命という言葉を用いるからです。

さて右の解決を靈ピオ十世教皇の御代、主に一九一二年の枢機卿委員会の出した召命についての結論に従つて求めましよう。

一、憧れを持つ事そのものは召命の記しで無くて一体でしよう

三、相応しく又自信のある人はおそらく一人も居ないでしよう

主御自らお選びになられた使徒達は、あのゲネザレト湖畔

の無学な粗野な漁師達だつたではなかつたでしようか。この様に聖主は「いと小さきもの」を時として選び給うのです。

四、司祭職の尊さ、崇高さに感動し発奮するのは、決して單なる感情の所産ではありません。即ち善に対する愛は理性による見識を前提するのですから。まして司祭職に於いておやです。

五、貴君の胸に秘めている憧れを通してこそ主は貴君に呼び掛けるのです。

六、判然としない貴君の召命の有無を判然として下さる方は、主の代理者なる主任神父様又は靈的指導司祭です。ここで残された問題の解決の所在は神父様のところに出向いて話す主体である貴君の側になくてどこにあるのでしょうか。

さて召命は特別な天からの「選み」であるだけに、僕の様なものが神父様の所に出向いて話すのも気おくれがしてたう。というのが最終の困難でした。それに対しての解決は召命は超自然的な選みには相違ないが、具体的に言つて、その選みはどんな方法で来るのでしょうか。勿論天使からのお告げや幻示によるのではありません。それは我主イエズス様から權能を委托された教会一教区長一主任司祭といふ超自然的世界の秩序を通して主御自身が選み給うのです。以上の他に健康、労力、道徳に於いて、それぞれ要求される資格がある事が具体的な召命の印としてあげられます

青年よ「目を上げて田畠をみよ、もはや刈取るべく白みたり（ヨハネ四・三五）。

### 新司祭を迎えて



にも報道せられ、つづいて二十三日新潟教会で初ミサを御立てになることは、既に御案内を頂きました。当日は御受難の主日であり、深い感激に打たれることであります。

司祭の不足は、キリスト様御布教の時代からの御嘆きであり、別けて邦人司祭に対する要望は、久しい以前から日本のカトリック教界の切なる願いであります。此度鎌田神父様の御来任はわれわれ新潟教会所属信者の無上の喜びであり、また天主の御計画の力強い実現として感謝の極みであります。

さて御復活の大祝日に当り、双塔誌に「新司祭を迎えて」と題した拙稿を寄せましたのは、鎌田神父様の御来任に関連してわが新潟教会での聖職者の方々の、これまでのいろいろな御辛苦が切実に脳裡に浮かんで来たからであります。それは「私達信者はこれでよいのか」という反省であります。

これは一つには昨年の世界信徒使徒職大会に於ける教皇様の御演説の訳文を「声」誌上に掲載してからであります。題は「現代の危機における信徒一責任と養成」とあり、もとより信徒使徒職についての御演説であります。平信徒に対する御示唆をも感得することが出来ると思ひます。

この御演説はわれわれ信者が熟して大なる教訓を頂くことが出来ると思いますが、この稿をおこす動機となりました文言は「平信徒は、もつと組織的に、教会当局へ協力し、その使徒的勞苦をもつと有効に助けることを申し出ることが出来るし、しか

がこれらについては直接神父様に伺うことをお勧めします。召命があるという事と召命が確実だと言う事は區別しなければならぬし、亦反対のことも然りであります。最後に簡単に結論を述べましよう。

ある淡い憧れがより大いなる善へと向つて強烈に志向するときそれは大志となるのです。「青年よ、大志を抱け」 そうです、ことは主の御言葉の「刈り入れは多けれども働くものは少し」の次の句、即ち「故に働くものを刈入れに遣わさんことを刈り入れの主に願う必須条件だといつても過言でないと思ひます。何ならば聖なる司祭職に大志を抱くことは単なる憧れにとどまらず既にそれは「聖なる野心」とも言うべき聖人達のそれに共通した要素をもつからです。

青年よ「目を上げて田畠をみよ、もはや刈取るべく白みたり（ヨハネ四・三五）。

鎌田神父様が、三月二十一日、東京の神田教会に於て、司祭に叙品せられ、新潟教区に御配属になったことは、カトリック新聞

も、このように申出ることは、きわめて望ましいことであります「云々 であります。

此の引用文は、御演説の本旨から見れば、附隨的な文言であります。私が信者としての有り方に強い反省の光となつたのであります。

当教会に於いてはいろいろな、グループがあります。何れも有意義に、又活潑に御活動のことと存じますが、全体的に見て右引用文の趣旨にお答え出来るような状態が出来上つております。

われわれ信者は教会に対して余りに「あなたまかせ」的になつてゐるのではないか。私は考へるに、教会はわれわれ信者は私も熱意に乏しい一人であつたからであります。

ここで私は否定的断定を思ひ止まらねばなりません。と言つてはいるのではないでしようか。私は考へるに、教会はわれわれ信者に期待しておられる処が頻る多いのではないか。これに対して教会が平易に信者に対して委託を申し出され得るような態勢と心構えが信者の間に出来ておるでしようか。

この種のことはわれわれが一人一人で考へて見るならば判然とわかることで、反対などあろう筈がないのであります。団体的には一致が成立し難いということが實際問題としては逢着する事であります。それは団体的訓練が足りないからであると言ひます。信者の群れに対してあまりにも機械的な考え方は不適切で好ましくないので、これを家庭と社会との関係に宛てはめて考へることは出来ないでしようか。

いま新潟教会の信者の全体を一つの社会と考え言ならば、その中にある各種のグループはこの小社会を形成する一つの単位と見ることは必ずしも不当ではあるまいと思います。もとよりグループと家庭とは同様なものではありませんが大きな有機的団体を形成する細胞と見ることは許されるあります。各グループは細胞として絶えず活潑に生きて居なければならない。これが沈滞しては信者全体の活力も稀薄とならざるを得ない。

この細胞に靈的な活力を注入して下さるのは神父様であり、各細胞の間に生き生きした脈絡が存在しなくてはならない。各細胞は有機的に結合して初めて一の生命体が出来上るのですから、各細胞がバラバラの独自の活動をやつて居たのでは美しい実を結ぶことも出来なくなります。このことは何も具体的な実務のみに係るものではなく、仕事が円満無碍に行われる素地ともいべき、細胞間の友愛関係が常に存在し、各信者の心中にも、或は直接に、或はグループ活動を通して交流することが最も必要な有り方であると考えられるのであります。各細胞は独自にも立派に形成されると同時に、隣の細胞とも核膜を通して信愛の靈液が交流するような状態が実現されることが望ましいのであります。

この度鎌田神父様の御来任に対して感謝せられることは、教会従来の御手不足が幾分なりとも緩和され、上述の如き趣旨が更によりよき他の形に於いてでも実現せられることを期待し得るからであります。もとより信者として靈的指導に服することは勿論で、諦めの感すら致す事もあります。

罪深い私共を神父様の御力で天主様のもとへお導き下さいませ。偽らぬ私の心境を申して歓迎の言葉にかえさせて頂きました。

### ◇ 新司祭をお迎えして ◇

「宣える如く蘇えり給えり。」アレルヤ」春のいぶきに包まれたかここ新潟の地方も木々や、草花は、芽をふき、長い冬眠には別れを告げた様です。

私達のカトリック教会にも毎年この頃に、とかく長いと思われ勝な四旬節の空気から、だんだん明るい歓喜と希望にあふれる祝日の近づくのを知りました。

今迄の数年間は、三森神父様一人幾役も、又高橋神父様には佐渡と掛け持ちと言う大任、私達信者はその御苦勞が知られなすぎると言つた方が適てるかも知れません。それは偏重に信者の価値的問題に関わるものと深く痛感している次第です。何しろ少なくとも積極性に欠けてることが難問の一つと思われます。

時には眠り入る不東者の多くを、神父様や教会の方々又一部熱心



### 新司祭にさゝぐ

神父様おめでとうございます。

やわらかな土の中から、ふつくり頭をもたげた芽、日増にふくらむ桜の蕾、幾年月くり返される偉大な自然の力、春は自然をして創造主なる神を最も讃美し、希望に輝きみちる日々でござります。

この佳き日に鎌田神父様をお迎え出来ることは何と私共一同の慶びでございましよう。

この喜びを最も信仰浅く無学な私に何が表示出来ましよう。これらも天主様のお摂いかも知れません。

泥沼に足をふみいれ、絶えず抑えきれない人間的欲望に悩まされ少しだけ聖なる神に近づきたいとあえぎあえぎ生活しております。

悪魔のささやきは絶えず私をなやまし、しばしば否、年中かも知れません欲望のとりことなつてある私に神の道は余りにも遠く

な信者にささえられている感じをまぬがれませんでした。

信者がもつと一致の方向に、と考える時、良く何か機会あることに神父様の申される、「犠牲なくしては」この自覚を深く反省する必要があると思います。

でも、やがては信者誰でもが、一群の中に力強く、静に、一致の行動を常とし、御榮のためにローマに直結していることを感じ、その大きな群の一つの姿を冷静に思い、その務を認識して、良き社会を、良き、カトリック青年の名を記すように願つております。でも思いあがりつきりにならぬ様に努めながら。

神父様方は立派な土台石を敷いて下さいます。

しかし信者が協力の義務を自覚しない時は、後の建設は完成の目的のない変なものになります。

この様な時に新しい神父様、大きな司祭の力のもう一つを加えて下さり、それを迎えることの出来たことを天主様に深く感謝し、きつとこれまでのことあつて、良き意味での発展を希望して良いものと信じます。

時々は逃げ出したくなる様な教会かも知れません。でも今迄イエズス様も、主任神父様も、お見捨てになりませんでした。

この機会にも目ざめ悔い改める私達を、愛してとび込んで下さい。なにもない野原で自分の周囲を見廻わし淋しさと失望に似たものを感ずる時、その事実は事実として足を踏みしめ冷静にみとめ今でも、今からでも遅くない。とふるい立ち、教会の根本精神を

あります。信者は更に積極的に教会活動に協力挺身することが出来るために、先ず信者としての本来の姿を体现し、洋々として盛り上る春の潮のような希望に生きたいと考える次第であります。

忘れない様に努力して行きたいと念じています。

△△みにくい子供こそ親はなんとやら△△  
どうぞお導びき下さい。又この際私達女子青年は、主任神父様から  
の案もあり、初めての試みで、女性としてもつともふさわしく、

且つ多くの手で出来る編物をあしらつたアルバを贈るべくよう  
やく完成しました。恥しいながらようやくなどと申さねばなりません。

尚、出来上るまでの一駒をここに記しますならば、この出来上り

への最後の追い込み戦／毎週日曜ミサ後に出来る方に集つてい  
たゞき、一緒に編む楽しいひと時もありました。「女三人寄れば  
何とやら」各人に語り合いつゝ、いつとはなしに皆が映画の話と  
なり、その頃には丁度あの美しい△菩提樹▽を見た頃で  
した。いろいろな場面々々印象的だつたことを語り、思い出す一  
駒一駒、コーラスのすばらしさをたたえては、遂に一実演一小さ  
い頃の誰でも知つてゐる歌を合唱し、あまり熱中して仕事の手が速  
度を落すなど、楽しく且つ私達にもお互いに親睦にプラスするも  
のもありました。

又ヨセフ会の方は私達の仕事をはげまして?イエズス様の着物  
(聖祭に用うる)を作るのは欣ぶべきこと、又どんなに手をつく  
しても過ることはないのだ等々、かくして第一回の作品の完成を  
みましたが、靈的にも技術の面からもあまり立派とは申されない  
かも知れませんが、しかし私達初めてなので自身の欣びは大きく

この先、年々への土台石的価値があると思います。  
体験を生かす方法を研究し発展を願つております。  
新司祭をお迎えした喜びに合わせて小さなとなみの中に見い出  
した喜びでもございました。

☆ 錬田神父様をむかえて☆

錬田先生は、僕たちの、サンマースクールの校長先生です。錬  
田先生はよく僕たちと、遊んでくださるので、僕は錬田先生が大き  
さすぎです。

錬田先生は、僕が一年生のころから、ずうつと僕のせい名のお  
祝日や、クリスマスの日には、お手紙を、下さいました。そのお  
手紙は、今でもみんなあります。ことに僕のせい人のこ  
とを調べて下さったのは、大せつに、しまつてあります。  
その錬田先生がこんど、神父様になられて、新潟にいらつしや  
るのです。ですから、こんどからいつでも、錬田先生にあえます。  
錬田先生が、神父様になられても、サンマースクールの校長先  
生でしようかと、時々考ります。そしていつまでも校長先生であ  
ればいいなあと、思います。

錬田神父様が、一日も早く、新潟にこられます様に。そして僕

三内

（三月十五日記）

は錬田神父様の、初ミサが、まちどうしくてたまりません。僕は  
なんとはなしに、うれしい気持でいっぱいです。  
僕は錬田先生に、早くおめでとうといいたくてたまりません。

終り

コント



一銭を粗末にする者は

ボカボカ暖かい三月上旬のある日、神父様は二人の子分を従え  
て町に出かけた。足の赴くままにKデパートにふらり。美しく陳  
列されているものはみな欲しいものばかりである。近頃いたずら  
に煙草をふかし出した神父はどうやらたばこ益が欲しいらしい。  
しきりとあれやこれやと眺めている。売り子を呼んで、いろいろ  
と品物を出させる。しかし八百円以上の品物には一瞥をおくるだ  
けで、手をふれない。さんざん迷つた上げ句、やつと「八百円也」  
の品にきまつた。さておもむろにポケットから財布を取り出した  
神父の顔はさつと赤らんだ。確か、家を出る時、八百円あつた筈  
の財布には七百円しか入っていない。途中で自動車の電球を買つ  
たことは勘定に入れていないらしい。正直な神父は「あれ、お金  
が足りない。又あとで買いに来ます」と売り子にわびた。これを  
見かねた一人の子分大きい方が、ポケットの奥をさぐりながら、  
地の果てに御身慕える。

されど……… おルルドの聖母よ

一十一

六十三円を出した。

神父は最後のあがき、先き程の電球のおつりをポケットから出して「あつ、あつた、ちようど四十円ある」。しかし、悲しいかなよく見るとそれは三十五円。これでは子分の持ち金を合せても七百九十八円、まだ一円足りない。先き程からこれをそばで見ていた中学一年のチビの子分、親分を助けるのはこの時とばかり、「あつ、ぼく、三円もつていて」と叫んだ。神父は「じや、二円かしてくれ」と親分の体面をも忘れてたのんだ。やつと八百円がまとまり上つた。この有様を見ていた売り子さんもケラケラ笑いながら、カウンターに走つていった。神父はすましこんで、八百円の煙草盆をちびの子分にもたせて、「こんどはもつと沢山お金をもつて買いに来るね」と売り子に愛嬌をふりまいて悠々と立ち去つた。さぞ今頃は煙草の煙にむせていることだろう。さてそれはどこの御神父様かしら。

つた。さぞ今頃は煙草の煙にむせていることだろう。さてそれはどこの御神父様かしら。

### 叙品式に参列して

ヨハンナ・フランシスカ

春ながら木洩れ日の薄ら寒く底冷えする朝でした。

受品者五十数名が肃々と一列になつて入堂する聖堂は、今日叙品される八人の司祭の家族を最前列に数十名の司祭、修道者、その他一般信者で立錐の余地もありませんでした。

### 四中段

#### 三外

の連禱の中に祭壇の下に平伏し、この世に死し、すべてを天主に献げ天主の御保護を祈り求めました。

副助祭の品級を受ける中には新潟教区の西村神学生も交つてカリス・バテナにふれ、言語の節制を意味する肩衣、善き業の実を意味する腕帛<sup>アーブルス</sup>楽しみと喜びの衣なる幌衣<sup>トガ</sup>を司教様より被せられました。

この日助祭の品級をうける方はなく書簡、昇階誦の後、いよいよ司祭志願者は一人一人指名を受けて「アドスマ」（出席しています）と力強く答えながら司教様の前に跪きました。

司教様は静かに鎌田師の頭上に掩手されました。

私は今こそ目に見えぬ恩寵を心の中にはつきり見た心地がしました。

天主様の恩寵はかくも偉大なことをなし給うものを。  
天主様の恩寵はかくも偉大なことをなし給うものを。  
天主様の恩寵はかくも偉大なことをなし給うものを。

Tu es sacerdos in eternum.

一人の人間は主に選ばれ、永遠の司祭へ！

すべては天主の御意志のまゝに。

この聖なる儀式を眼のあたり見せ給う主よ、罪人である私の眼はこの光にうたれて、どうしてつぶれないのでしょうか。

行列の最後に近く真白なアルバに瘦身を包んだ鎌田師の姿を見た時、何か大きな力にゆすられるようにあふれ落ちる涙をとどめずらなる想いにかられて過して来たこの日頃のさいはてのたかまにはただ涙となつて私を茫然たらしめているのでしょうか。

今日、この時のためにノヴエナを捧げ、ロザリオをくり、ひたすらなる想いにかられて過して来たこの日頃のさいはてのたかまにはただ涙となつて私を茫然たらしめているのでしょうか。

全神経を集中して祭壇に眼をこらしました。

司教様が入堂され聖ベネディクトのミサが始まりました。キリストの後受品者一同は祭壇中央の司教様の前に半円形に並びました。これからよいよ剃髪式に始まつて下級品級がミサの間に次々と授けられていくのです。中にはトンスラをうける新潟教区の野田神学生の顔もみえます。

歌隊が壯厳に詩篇を唱え、司教様のお膝にひろげられた白布の上に僅ずながら被剃髪者の頭髪がこぼれました。スルブリを身に受けて自席に戻る野田神学生の額は思案の中に今日から世俗の世界を全く離れるという決意がりょしくも輝いているかにみえました。

グロリアの後、つづけられる守門、読師、祓魔師、侍祭の品級を受けるしは如何にもその意義にふさわしく、鍵を受け、鐘を鳴らし、朗誦書を授けられ、ミサ典書を頂き、ろうそくと祭瓶にふれました。

上級品級志願者は集禱文の後参列者一同の心より唱える諸聖人

ー 13 ー

列席された司祭方は交々立つて志願者の頭上に按手されました。

遠く故国を離れて何十年神学生養成につくされた老宣教師の瞳にも一二年前の叙品式の記憶も新らたな若い司祭の頬にも一様に慈愛にみちた光が漲りました。今から共に十字架を荷う若き司祭よ我と共に後につけと呼びかけるように。

今まで斜めにかけていたストラを胸前に交叉し幌衣を被せられた姿はいよいよ聖なる人という感深く双肩にかけられた重責は祭服に金糸で彩られた十字架のそれにかたどられておりました。

神学生たちの合唱するヴェニクリアトルの間に志願者は両掌に聖油を塗られ、半巾<sup>ハーフチ</sup>ようのものでしばり葡萄酒と水をいれたカリス・ホスチアをのせたバテナにふれました。

さらにミサは続けられ祭壇の下に並んだ八人の新司祭は介添の神父様に援けられつゝ司教様と声を揃えて奉獻の祈から聖体拝領まで誦えました。鎌田師の介添は新潟から馳せ参じられた三森神父様。

聖体拝領の後赦罪権が授与され、今まで上げてあつた幌衣の後をおろし、初めて完全な司祭の姿となりました。叙品者は各々司教様の前にすゝみ、各自司教、教区長に尊敬と従順を約束し、司教様と抱ようしました。最後に司教様の御訓示を受け、感謝のため新司祭たちは三つのミサをさゝげるようと言われます。それに対してすべての受品者は「喜んで」と確く約しました。

デ・デウムの高らかに唱われる聖堂を司教様が退堂されて後、新司祭の一人である青木神父様より全贍育の教皇祝福を頂きました

- 14 -  
午前九時に始まつて四時間にわたる聖式は夢のようの一瞬でもあ  
りました。すべての受品者が退堂し聖堂にみちていた信者の姿も  
まばらになつた時、深い感動にしびれた私はまだ立ち上ることす  
ら忘れておりました。外へ出ると、余り広くない聖堂横の庭は新

司祭をかこむ神父様方、神学生や近親者で埋まつていました。今  
日受品された名古屋教区の神学生方に声をかけられ挨拶を交しな  
がらも眼は鎌田師の所在を求めていました。何處へいかれたのか  
しら。まだ祭服をつけたままの新司祭から掩祝して頂いている信  
者の群がそこここにみうけられる中に鎌田師の姿はありません。  
ようやく人の中をぬつて聖堂の後の方へ來た時、そこはやゝ人  
影もまばらに鎌田師を囲んだ新潟教区の人たち、三森神父様のお  
姿も見えました。おめでとうございます、と心から言いたかつた  
私はもうそれは言葉となりませんでした。あゝといつたまゝ私は  
くずれるように鎌田師の前にひざまづいておりました。

神父様の両手が私の頭の上に静かにおかれました。神父様、あ  
なたは今日から私のお父様です、いえ、すべての信者のお父様で  
す。イエズス様がガリレアの貧しい人々を祝されたように、私は  
あなたの前にほんとうに貧しい人でありたいのでした。

まだ聖香油の香り高い両掌が眼の前に差出されました。私は波  
らん多い生涯の中にあつて今始めて知る平安の喜びにむせびつ  
病みほうけた老婆のように涙と共にその聖なる掌に接吻を送るの  
でした。

編集後記

祝、御復活

御復活号と銘打ちましたものの、中はごらんの通り新司  
祭歓迎号となりました。教区長様の御言葉のように御復  
活の喜びと鎌田神父様の叙品の喜びとは深い意味におい  
てつながりを見いだすと共に私共は心から司祭職への協  
力と奉仕とをお誓いしようではありませんか。



双塔 第二十号

一九五八年四月六日発行

野田教区長認可

発行 新潟カトリック教会